

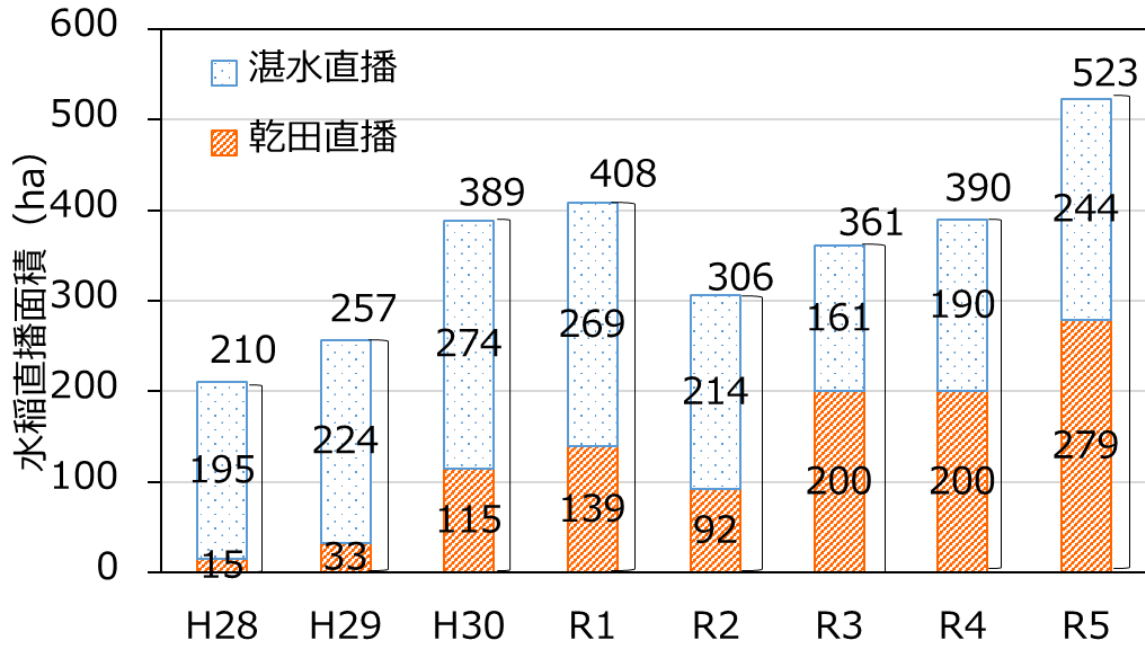
プロジェクト課題No.4  
水稲乾田直播栽培の  
技術定着による収量向上

活動期間：令和4年度～令和5年度

対象者：水稲乾田直播栽培実践農家3経営体（水稲乾田直播栽培勉強会メンバー16経営体）

チーム員：佐藤楓、八木沼湧太

# 1 課題の背景・ねらい



管内水稲直播栽培面積の推移（直播状況調査結果より）

仙台湾沿岸地域を中心に  
乾田直播栽培の取組みが拡大

労働力  
不足軽減

春時期の  
作業分散

水稲育苗  
に使う  
ハウス数  
の削減

その中で

- ・ 新たに取組みを考えている
- ・ 収量が確保できればさらに取組み面積を増やしたい

という声も...

## 課題

- ・ 移植並みの収量の確保
- ・ 他栽培事例の入手が困難
- ・ 意見交換する場がない  
など

## 【定性的目標】

- 乾田直播栽培技術が定着し、移植と同レベルに収量が確保される
- 生産者間のネットワークが形成され、情報共有や技術交流が盛んに行われる

## 【定量的目標】

○ 水稲乾田直播栽培における収量/10a （3経営体平均）  
 〈R3〉 487kg ⇒ 〈R4〉 506kg ⇒ 〈R5〉 530kg

# 2 活動内容 (R4年活動と実績)

## ○勉強会等の開催

- 適切な栽培管理について理解、勉強会メンバー増加、生産者間の繋がり形成

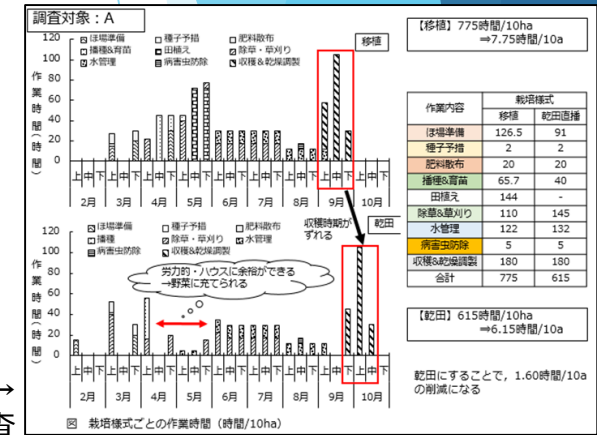


勉強会の様子

## ○生育調査・耕種概要調査の実施

## ○労働時間調査

- 乾直の導入による作業分散の実態を、農業法人と個人の2パターンで調査
- 移植比で、約1.5 hr/10a作業時間削減、4月中旬~5月中の労働力削減、収穫時期が後半にずれる
- 新規取組者の作業計画の参考となった

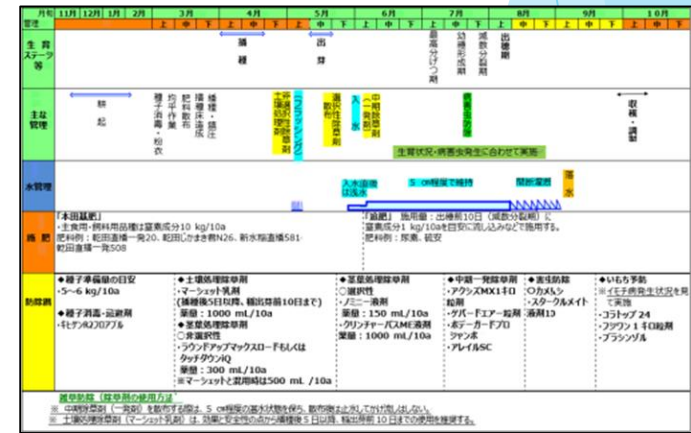


労働時間調査

## ○個別指導巡回

## ○仙台地域版 栽培暦・栽培手引きの作成・配布

- 12経営体の耕種概要をもとに、東北農研センターの協力により作成



**定量的目標**

〈R3〉 487kg/10a ⇒ 〈R4〉 506kg/10a ⇒ 〈R5〉 530kg/10a

**実収量(3経営体平均) 550kg/10a**

## 2 活動内容 (R5年)

### ○勉強会・先進地視察・総合検討会の開催

勉強会：月1回、各回異なるほ場数か所で現地検討

先進地視察：石巻地域の法人を視察

総合検討会：今作の振り返り・次期作以降の栽培管理検討

### ○耕種概要調査 (14経営体分)

勉強会の意見交換・仙台地域版栽培 手引きの資料として活用

### ○苗立調査・生育調査の実施

苗立調査：対象3経営体含む13経営体20ほ場で調査

生育調査：対象地域の主要品種(まなむすめ、ひとめぼれ、ササニシキ)  
+ 今後普及拡大の可能性のある品種(金のいぶき)

### ○個別指導巡回

雑草や病害虫の防除・追肥・雑草防除等



生育調査の実施



勉強会 (先進地石巻への視察)



総合検討会 (1月)

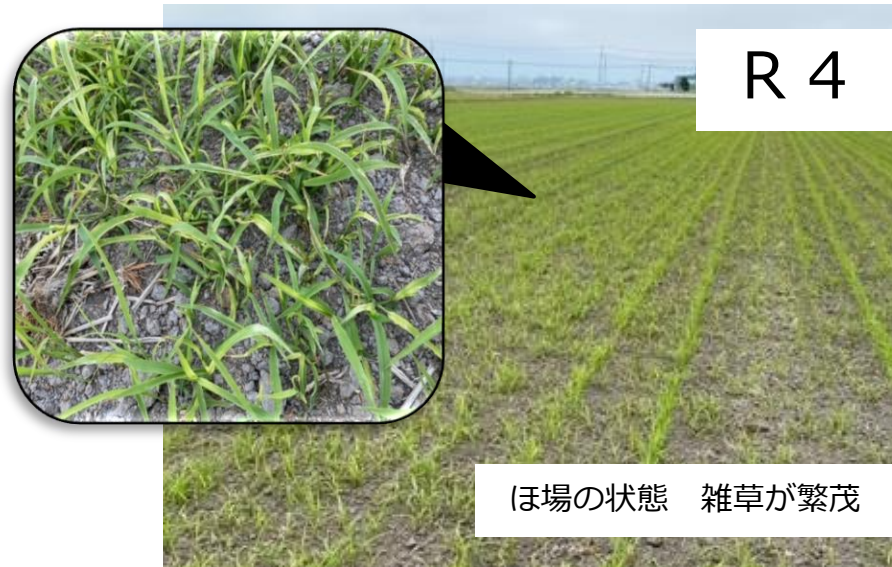
# 3 これまでの活動成果

## ○苗立率・苗立本数の向上

- ・キヒゲンの使用、ほ場準備の見直し、一時通水の実施  
⇒苗立率・苗立本数ともに向上【R4：49% 86本/m<sup>2</sup> ⇒ R5：80% 143本/m<sup>2</sup>】
- ・苗立調査を行った仙台湾沿岸地域では、16/17ほ場(新規取組者含む)で、いずれも100本/m<sup>2</sup>以上の苗立本数を確保

## ○雑草の適期防除

- ・イネの生育や雑草の状態を観察した上で薬剤を選定、適期防除を実施  
⇒ R5は雑草の多発生は無 ⇒ 収量増



# 3 これまでの活動成果

## ○仙台地域版 栽培の手引き(R5)の配布

- ・東北農研センターの協力により、栽培の手引き(R4)を改良

## ○基本となる栽培技術の定着

- ・適切な管理や適期作業が行われ、収量増  
⇒**基本技術が定着**してきたことで、  
除草回数削減案や施肥の削減の可否等、意見交換の内容が変化

## ○移植栽培並の収量の確保

- ・定量的目標：530 kg/10a ⇒**実績：556 kg/10a（3経営体平均）** ※金のいぶき除く



### 追加記載

- ・ 出芽前除草時期予測
- ・ 出芽遅れ時の対応
- ・ 難防除雑草への対応

仙台地域版  
栽培の手引き (R5)



勉強会の様子 (5月)



総合検討会 東北農研センター講義 (1月)

# 3 これまでの活動成果

## ○勉強会等での活発な意見交換

- ・参加者同士が積極的に意見交換できる場に
- ・参加者に広がり⇒より幅広い方々と技術交換
- ・石巻地域の取組者とつながりができ、意見交換も実施

## ○新規取組者への支援

- ・巡回＋勉強会で普及協力員や東北農研センターから助言  
⇒栽培管理の参考・課題の認識

## ○生産者間のネットワーク形成

- ・総合検討会後のアンケートで多かった意見  
「勉強会が情報共有のきっかけとなった」  
「紹介された技術や情報が役に立った」  
「今後も生産者同士で集まり、情報交換を継続したい」

⇒**勉強会が生産者間のネットワークの形成に寄与**



勉強会で除草剤散布のタイミングについて説明  
(普及協力員：(農) 仙台中央アグリサービス 萱場理事)



石巻先進地視察（8月）

### 3 これまでの活動成果（まとめ）

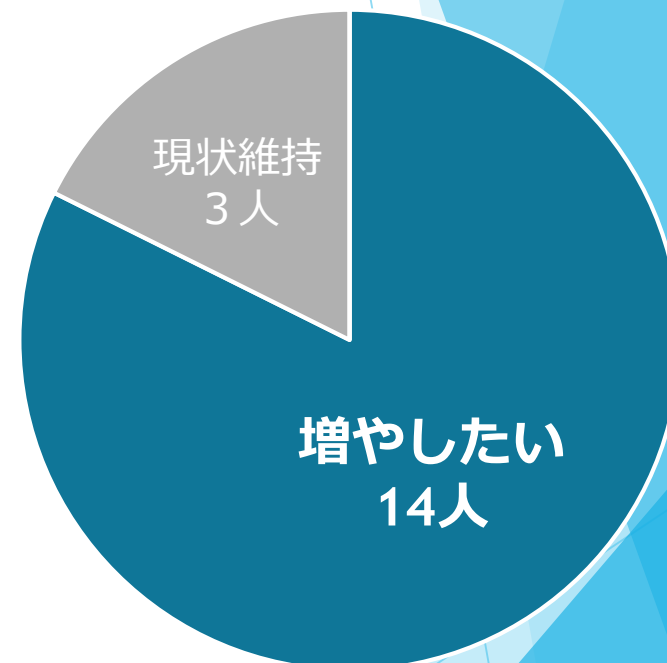
基本技術の定着により  
移植と同レベルの収量確保

地域で技術向上ができる  
ネットワークの構築



他地域へ波及

Q.今後の乾直面積は増やす？  
(R6.1実施アンケート 回答数17)



- 増やしたい
- 現状維持
- 減らしたい